

つながっていこう!

Nice People! Vol.14

ナイス
ピープル

和歌山、奈良で活躍しているヒトにスポットをあてインタビュー！
人生を変えた「名言」や「座右の銘」を伺いながら、
今に至るまでのエピソードや失敗談、将来の夢を語ってもらいました。
ヒトからヒトへと、リレー形式で掲載いたします。
次号もお楽しみに！

きのかわトークニュースのホームページにも、
今回ご紹介したヒトの情報を紹介しています。



きのかわトークニュースHPで情報を更新中!
<http://www.talknet.jp> きのかわトークニュース

パソコン、
スマートフォンから
チェック
できるよ!!



座右の銘

『どの子どもも育つ』

保育園生活の中で、教えるだけでなく、自らの力で成長していく



山の子共同保育園々長
かまじり さとみ
嘉摩尻智美

[Profile]

◆1959年生まれ、◆有田市出身。
帝塚山学院大学日本文学科卒。結婚後2人目を産んだ際に、子育てに悩み、子育てサークルに参加。自分達で保育園を作ろうと1990年11月に民家の1室で無認可の共同保育園をスタート。1992年現在の北長田に園舎を建設。2011年NPO法人となり、2016年4月小規模保育事業所として紀の川市の認可を受けて、現在に至る。



山の子共同保育園々長嘉摩尻智美(かまじりさとみ)さんは有田市出身で、結婚を機に紀の川市に移ってきました。知り合いも少ない中、二人目を産んで、子育てに悩んでいた際に、「子供と一緒に運動しよう」というサークルに入ります。同じような子供を持つお母さんとの交流で、お友達と思いつき遊んでいると、食事は、お昼寝はというところになってきて、「いつかこのこと保育園を作ろう」ということになり、嘉摩尻さん達は保育士の資格をとり、民家を借り無認可で保育園を始めました。当初は自分達の子だけでスタートしましたが、「私達の子も

預かって欲しい」と希望する方もあり、考えていたよりも大所帯でのスタートとなりました。自分達の子だけでなく、信頼して預けてくれる保護者の方もいるため、体調が芳しくないという、当然のことですが、休園する訳にもいきません。改めて子供を預かる大変さを痛感したそうです。さらに、子育ての経験はあるとはいえず、あくまでも自分の子だから、よく分かっています。預かっているのは見知らぬ子なのに、突然泣きたず子がいても、何故泣いているのかも分からず、対処方法も見つからず右往左往したといえます。

こんな状況の中で、保育園を続けていくことができたのは、保護者の方と子供の親子での応援が多くあり、この応援が保育園を続けていく力強い助けとなったそうです。「保育園を続けていくことで、県外の保育園さんとの交流ができ、同じような悩みを持つ保育園と情報交換をすることで、仲間意識が生まれました。こうしたことも、乗り越えていくことの要因の一つとなりました」と嘉摩尻園長は語ってくれました。



得ることができ、さらなる夢に向かって邁進している山の子共同保育園。最後に、同園長は子供たちが本来望んでいる保育園づくりをこれからも目指したい」と語ってくれました。

座右の銘

『早起きは三文の得』

毎日3時に起きています



関西ハウスクリーン 事件現場特殊清掃士
まえさか 前阪 昂佑

[Profile]

◆1984年生まれ◆紀の川市粉河出身
地元高校を出てIT専門学校に入り、東京の大学に入学。大阪で就職し、不動産管理や仮設資材メーカーに勤務。地元に戻り、農業を手伝っていたが祖母が亡くなり、郵便局に勤務。その仕事の延長で今の仕事(事件現場特殊清掃)を始める。



▲関西ハウスクリーン代表のマエッチで〜す♪

きは日に数件の依頼が入ります。仕事エリアは和歌山はもちろん、大阪、京都、神戸と広範囲で使命感を持って毎日忙しく飛び回っています。
前阪さんはきさくでユーモアのある方で、また独身です。お嫁さん募集中とのこと。(早い者勝ちですよ！)(27ページの広告もご参照ください)

前阪さんは、子どもの頃から早起きで、今は毎日3時に起きています。寝るのは夜の10時から11時で睡眠時間は4〜5時間で充分とのこと。早起きして勉強したり、趣味の釣りや畑いじりを楽しんでます。
過去に、郵便局で保険の仕事をしていた、家督相続のもめごとで「家の処分をどうするか」という問題に直面し、これからこういう事例が増えてくるのではと実感したのだそうです。
現在は、事件現場特殊清掃士という資格を持って仕事をしています。2020年には、高齢者世帯の

約1/3が単身世帯となり、全世帯の13%(8世帯に1世帯)が高齢単身世帯になるといわれています。
昨今、耳にすることが多くなった「孤立死」。亡くなったときに周囲に家族がいなくて、『身寄りがない』『遺体の引き取り手がない』といった状況も多くなってきました。特に人間関係の希薄な都会においてそれが増えています。
さらに社会問題となっている「み屋敷」や「猫屋敷」など、悲惨な現場では、ご家族は部屋を「片づけたいいの、片づけられない」、「部屋に踏み入ることもできない」というのが実状です。

そうした中で、遺族や依頼者に代わり、適正価格で安全に作業を行うことを任されるのが前阪さんのような「事件現場特殊清掃士」というプロフェッショナルなのです。
素人はそもそもどこから手をつけていいかわからないといまして、前阪さんは、まずゴミから捨てて通路を確保します。次に貴重品や思い出の品々を分け、家具はなるべくリサイクルに出します。猫屋敷などは臭いがきついのでオゾン脱臭をします。このようにして、一軒家を特殊清掃するのに3日くらいかかるそうです。多いと



▲趣味で楽しむドラム缶風呂